

令和7年（2025年）度行政評価シート【個表】 令和 7 年 6 月 20 日

評価対象事業		評価者	文化課長 島田 義正	
共生-25	鎌倉芸術館管理運営事業	☒ 自治事務	主管課	文化課
		☐ 法定受託事務	関連課	
総合計画上の位置付け	分野	2-(2) 文化	施策の方針	2-(2)-①文化活動の支援・促進

1 事業の目的

対象	市民等
意図	鎌倉市の芸術文化の拠点である鎌倉芸術館の機能を発揮できるよう指定管理者制度を導入し、施設の管理運営を行うとともに、施設・設備の修繕実施により予防保全を図るため。
効果	指定管理者制度導入により施設の利用貸し出し、鑑賞機会の提供や施設の維持管理など鎌倉芸術館の一体的管理に基づく効率的な運営を図り、予防保全により施設・設備の良好な維持を図る。

2 令和6年(2024年)度を実施した事業の概要

・ 指定管理者制度により、鎌倉芸術館の効率的な管理運営を行った。 ・ 指定管理者との役割分担に応じた施設の維持管理を行ったほか、鎌倉芸術館用地の賃借などの業務を行った。 ・ 外部評価委員会を設置し、専門知識や経験を持つ第三者による客観的な視点から施設の運営状況等の評価を行った。	
---	--

3 事業を構成する事務事業(最小事業)実績

枝番号	事務事業	実施した主な事業 (主な経費等)	指標(単位)	令和6年度		令和7年度	達成度
				指標(実績値／目標値)		指標(目標値)	
				事業費(決算／当初)(千円)		予算額(千円)	
01	鎌倉芸術館管理運営事業	鎌倉芸術館指定管理料、用地賃借料、光熱水費	施設利用率(%)	81.1 / 300,739	85 / 320,357	85 / 293,572	95%
02	鎌倉芸術館維持修繕事業	維持修繕料	-	- / 9,909	- / 10,000	- / 10,000	-
03				/	/		
04				/	/		
05				/	/		
06				/	/		
07				/	/		
08				/	/		
09				/	/		
10				/	/		
		財源内訳	国県支出金	/			
			地方債	0 / 0			
			その他特定財源	4,776 / 5,208		5,208	
			一般財源	305,872 / 325,149		298,364	
		事業費の合計（千円）			310,648 / 330,357	303,572	
人件費（千円）			7,768		9,064		

4 この事業に関わる職員数(毎年度4月1日時点)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
正規職員等	2.2	1.8	1.0	1.0	0.8	0.9
会計年度任用職員	1.0	0.8	0.9	0.9	0.9	1.0

5 評価結果

(1) 最小事業評価

枝番号	事務事業	指標分析の推移、目標未達の理由	上位施策にどう寄与したか、構成する事業としての妥当性	事業実施上の課題、改善点
01	鎌倉芸術館管理運営事業	多様なジャンルの自主事業の実施、積極的な広報に努め、多くの来館者を得たが、利用率は目標値にわずかに届かなかった。前年度からは6ポイント増加していることから、現状は維持しつつ、時勢を分析しながら、より柔軟に使いやすい制度、設備の更新が必要と考える。	指定管理者の専門性等を生かし、文化活動の支援及び推進に寄与する。	定期的な事務打合せ及び意見交換を継続し、指定管理者と意思疎通を図っていく。
02	鎌倉芸術館維持修繕事業	義務的な支出であり、指標の設定にはなじまない。	利用者の安全かつ快適な利用の実現のため。	指標の設定は行わないが、施設の状況を踏まえ、効率的・効果的な維持修繕を実施していく。
03	0			
04	0			
05	0			
06	0			
07	0			
08	0			
09	0			
10	0			

(2) 視点別評価

効率性	事業費の削減余地はないか	1 事業費の削減余地はない
	事業の外部化(民営化・業務委託等)はできないか	1 実施済み
	関連・類似する事業の統合はできないか	3 統合できる事業はない
妥当性	各事業の実施に対する市民ニーズはあるか	1 市民ニーズは変わらずにある
	民間によるサービスで代替できる事業はないか	1 民間によるサービスで代替できる事業がある
有効性	事業の上位施策に向けた貢献度はどうか	1 目的達成のために適切な手段(最小事業)である
公平性	受益者負担は公正・公平か	○.負担導入済 ○-1 受益者負担を求めているが、その額や対象等を再検討すべき事業がある
協働	市民等と協働して事業を展開しているか	△.協働未実施 △-1 今後、市民等との協働による事業を検討すべき事業がある
		協働実施済の場合のパートナー

(3) 総合評価

※最小事業評価を踏まえて、今年度以降の取組方針等を記載する

【今後の方針】	☐ 拡充	☒ 改善・変更	☐ 現状維持	☐ 縮小	☐ 休止・廃止
効率性については、築年数の経過による建物、設備の老朽化や運営状況により、指定管理料、維持修繕費、負担金等の削減は現実的ではなく、「事業費の削減余地」は「ない」とした。 妥当性については、鎌倉の芸術文化発信拠点として、年間およそ20万後半から多い年では50万人を上回る利用があることから、一定の市民ニーズが認められる。 協働については、施設の持続的な運営を図る必要があることから、指定管理者と連携して市民ニーズ、市内の文化芸術資源の把握に努め、芸術館における協働関係の構築について検討していく。					

【参考】

◎事業実施に係る主な指標

指標(単位)	施設利用率						単位	%
指標設定理由		年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
鎌倉芸術館の利用ニーズを把握するため	目標値		50.0	65.0	80.0	85.0	85.0	85.0
	実績値		55.7	69.2	80.0	75.4	81.1	
	達成率		111.4%	106.5%	100.0%	88.7%	95.4%	

指標(単位)							単位	
指標設定理由		年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
	目標値							
	実績値							
	達成率							

◎他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項	施設利用率(大ホール) (令和6年度実績)							
団体名	鎌倉市	藤沢市	小田原市	横須賀市	茅ヶ崎市			
他市実績	目標85%							
	81.8%	80.0%	67.0%	60.5%	74.1%			

当該事業実施に伴う 他市比較に関する考え方	近隣市町村の同種の施設と比較し、競争上の位置関係を客観的に把握するため施設利用率を比較する。 鎌倉芸術館は、年間利用者数が50万人を上回る年もあり、利用者数が多い施設と言えるが、大ホールの利用率は他市と比較し、同等程度である。 令和2年度の施設利用率(大ホール)については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により33.7%と大幅に落ち込んだが、令和3年度以降は、R3年度68.3%、令和4年度78.3%、令和5年度77.9%と大幅に改善した。しかしながら依然として、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けない平成30年度以前(83~90%程度)には一歩及んでいない。
--------------------------	---